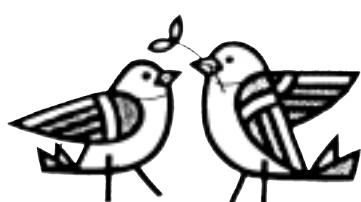


市の鳥



カワラヒワ

広報えびな



実際に使用していた教科書なども展示されます

明治時代の問題にチャレンジ

今回の特別展では、当時の学校の試験問題も展示します。今のテストよりずいぶんむづかしいものです。

【漢字の読み】

① 囲繞 ② 駆 ③ 沢野
いかがですか？これは下等小学第4級(今的小学校3年生前半)の問題です。会場には他にも多くの問題を用意しています。ぜひチャレンジしてください。

みへす③じやき④じよく⑤じよく⑥じよく⑦じよく⑧じよく⑨じよく⑩じよく

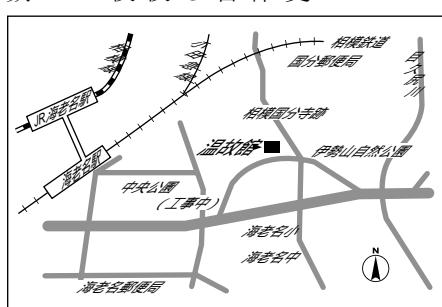


明治40年代の児童たち

○建物も貴重な文化財

温故館は1921(大正10)年の相模国分寺跡が国指定史跡となった年に、国分寺跡保存整備事業の一環として考古学資料などを保管・展示するため尋常高等海老名小学校(現在の海老名小学校)の校庭に設置されたのが始まりです。

【温故館】は時代を経て数



来年度から学校は週5日制になります。学習内容も変わります。こうした学校に対する関心が高まっている現在、今回の特別展では明治時代の学校にスポットをあて、海老名における学校の始まりとその歩みを紹介しま

「国分学校」、「博敏学校」、「本郷学校」などは、明治の初め海老名市域にあった学校です。1873(明治6)年、明治政府は「学制」の公布を行い、全国に学校を設置し、海老名でも6

校が開設されました。そして6歳以上の男女の就学を呼びかけました。しかし、明治前期は行政区画や教育制度が目まぐるしく変化し、海老名市域の学校も複雑な変遷をたどりました。

同展では、海老名の学校の移り変わりを、貴重な文書や日誌、使用された教科書などを展示するとともに、これらの文献を通して当時の様子を紹介します。

◎建設資金は村民から

学校を作るにあたっては、その建設のためのお金は、すべて村民の負担でまかなわれました。そのため、どのようにしてお金を集めるか、人々は大いに悩み、苦労したようです。

人々の苦労の末、できた学校はどのようなものだったのでしょうか。当時は今と違って、下等小学・上等小学があり、試験に合格しなければ進級することができませんでした。また、授業料が必要だったことや、子どもも貴重な労働力であったことから、途中でやめる子や学校に行けなかつた子も多かったよう

◎季節で異なる始業時間

明治中期の学校生活の様子について、日誌をもとに紹介します。

明治40年代に入ると、義務教育は6年になり、ほとんどの子どもたちが学校に通うようになりました。このころ、海老名村では、尋常今泉小学校(上写真)

◎尋常高等海老名小学校と尋常高等有馬小学校の時代

す。

○尋常高等海老名小学校と尋常高等有馬小学校の時代

一方、有馬村では、1892(明治25)年に設立された尋常高等小学校、尋常啓蒙小学校、尋常高等海老名小学校が誕生します。

す。

す。